

戦後の石橋湛山と永続敗戦レジーム

文化学園大学服装学部助教 白井 聡



- * 鳩山退陣で気付かされた戦後の正体
- * 戦後日本の背骨は「敗戦の否認」
- * 冷戦構造で温存された永続敗戦レジーム
- * 対米従属が永久化される理由
- * 対米従属と東アジアでの孤立はコインの裏表
- * 「冷戦脳」が生み出す中国敵視政策
- * 米国の意思を「輔弼」する権力中枢
- * 極右ポピュリズムと結合する安倍政権
- * 石橋湛山の早期退陣をどう考えるか
- * 対米従属に抵抗して公職追放された湛山
- * 湛山の日中米ソ同盟構想と脱・対米従属思想

柴生田 それでは開会いたします。（拍手）
本年度は石橋湛山賞をお二方が受賞されましたが、今日はお二人目の講演でございまして、たいへん話題になって、すでに6万部を超えたという『永続敗戦論―戦後日本の核心』を書かれた白井先生にきていただきました。

早稲田大学を卒業され、現在は文化学園大学服装学部で教えておられ、来年からは京都精華大学のほうへ移られるということでございます。専門は政治思想史ということでございますが、今回の受賞作は、戦後の日本のあり方について、たいへん鋭い切り口でお書きになっておられ、現在続編を構想中だそうでございます。本は入り口で売っておりまして、帰りにも販売があると思いますので、ぜひ手にとっていただいで、

ご興味がある方はじっくりお読みいただきたいと思えます。

それでは先生、よろしくお願いいたします。（拍手）

白井 皆様こんにちは。ご紹介をいただきました白井聡と申します。本年度、石橋湛山賞というたいへん名誉ある賞をいただき、また今日は伝統ある経済倶楽部講演会でお話をさせていただきます機会を与えられました。関係者の皆様にごより感謝申し上げます。

『永続敗戦論―戦後日本の核心』という本を書きまして、それが一定の話題を世の中で得ることができ、この素晴らしい賞もいただくことになったわけでありますが、私はもともと政治思想というような、哲学などに近い、世の中か